

文化・芸術

《名画の扉》

大川美術館コレクション展から

高崎市に生まれた鶴岡政男は、戦前には松本竣介らと新人画会を結成してシュールレアリスム的な作風を展開しました。戦後は社会への批判と風刺の精神、鋭いまなざしによって人間の本质を見詰め、ユーモアあふれる人間像を描き続けた画家です。

1960年代、鶴岡はパステル画を好み、数多くの作品を制作しました。その一つである「浮遊」では、はっきりとした形を確認することはいきませんが、濃く淡く塗り重ねられたパステルの深層に浮す。

（佐藤）

「展示室5 展示風景」

「浮遊」1962年、パステル・紙、35・8
 寸×24・8寸
 「夢魔」1964年ごろ、油彩・カンバス、41・0寸×32・0寸
 写真右から

鶴岡政男（1907～79年）

